

「ふつうの津軽の幕の内弁当」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

今日はお弁当の日だった。私は大宮から通っている先輩の先生に頼んで、駅弁を買ってきてもらうことにした。大宮駅では東北地方の駅弁を売っていることがあるのだ。東北の駅弁はどれもおいしい。



その名も、「ふつうの津軽の幕の内弁当」奥羽本線の五所川原駅の名物である。開けてみてびっくり。どこが「ふつう」なの？ぜんぜんふつうじゃない。

中にはおかずの説明書きまで入っていた。ほとんど料亭のお品書きである。

- ①ホタテ唐揚げ (青森産のホタテ唐揚げです)
- ②煮物 (人参・ごぼう・高野豆腐)
- ③ホタテの黄金焼き (自慢の一品です)
- ④なすのしそ巻き (津軽の夏の一品です)
- ⑤もっこり卵のだし巻き卵 (津軽半島の高級卵です)
- ⑥すしこ (餅米と赤しそを使った発酵食品です)
- ⑦キュウリの漬物 (辛子風味になっています)
- ⑧味付身欠き鰯 (味噌漬け込んだ昔ながらの味です)
- ⑨イカメンチ (イカゲソと野菜のB級グルメです)
- ⑩シマホッケの漬け焼き (津軽ではよく食べる焼魚)
- ⑪御飯 (青森県産米を使用しています)

一品ずつのおかずの大きさは「一口サイズ」なのだが、ほとんどが青森県産の食材や、津軽の伝統料理である。すっかり青森の高級料亭で食事をした気分になってしまった。さすがに価格は1100円！「高級駅弁」に分類して良いだろう。それにしても、こんなに「ふつうじゃないふつう」は生まれて初めてである。一緒に机でお弁当を食べていた3年生の子どもたちが、「いいなあ〜」とうらやましそうに見ていた。次回は五所川原駅で買って、津軽鉄道のストーブ客車の中で、ゆっくり味わいたいと思った。

